



世界における企業の標準化と M&A における世界市場の統一

黒田インターナショナル

黒田 毅

企業買収と次世代技術における産業の転換は、その巨大資本と技術における企業プレゼンスと王国の建設を与える。

これら勝利者たちが世界を占有することである。

世界における巨大資本は真実において世界の所有を有するのである。これらは西洋列国が、植民地支配から永続する世界の現実なのである。

勝者と王が、全てを有し行うことは、過去においても同じなのである。唯一社会活動の存在と大衆の時代という他方における現実も否定できない。

世界の市場の統一化は、これら製品と技術における絶対的なプレゼンスと価格という競争は、メガコアコンピタンスという GAFAM などの存在を与える。

資本と技術における独占は、M&A におけるグループの形成とともに世界のビジネスシーンと未来への与えるのである。

これは経済至上主義と社会学の進歩における社会との共生という社会責任という概念において、東洋と西洋を対比する。

例えば、ボーイングやロッキードの次世代旅客機や軍事戦闘機を製造することができる企業はどれだけ存在するのであろうか。これらはこれらコアコンピタンスを永遠することを表すのである。

これは国家における安全保障は、その産業の育成を求め、技術というソフトへの投資は、基礎研究環境と宇宙と軍事的開発環境を自己に要求するのである。